

海外留学報告会抄録
(ワシントン D.C.派遣研修)

医学科 5 年 衣笠右鏡
医学科 2 年 安部華子
木下輝来
垣根穂香

私たちは 2023 年 8 月 27 日～2023 年 8 月 31 日にかけてワシントンを訪問し、第 8 回世界小児心臓・心臓外科学会(WCPCCS)で小児循環器の最先端を学ばせていただきました。また、愛媛大学医学部卒業生である伊藤誠治先生のお取り計らいにより、現地の小児病院である National Children's Hospital を見学させていただくことができました。

WCPCCS では世界中の医療機関から演者が集まり、発表は主にポスター発表と口頭発表の 2 種類に分かれておりました。前者は疑問点があれば適宜質問させていただきながら説明をお伺いすることができ、後者は高明な先生方が最新の医療について独自の見解を示されていました。内容は画像診断やカテーテルなど疾患の診断や治療に関わるもの、治療後の管理に関するものや看護の観点から述べられたものなど多岐にわたっていました。当然ながら内容は全て英語であり、内容も高度で難解なものが多かったですが、海外の学会に参加させていただき、普段はできない体験をさせていただいて非常に良い刺激になりました。

National Children's Hospital では外来診療や病棟回診の見学をさせていただきました。外来診療は医師だけでなく、医師の補助的な役職である Physician Assistant(PA)の方も医師と同様に行われていました。都度患者さんの病態について説明していただき、患者さんの同意があれば触診や聴診等をさせていただくことができました。病棟回診は入院患者さん一人一人の病室を訪問する点は日本と同じでしたが、日本のように患者さんの病態についてのカンファレンスを済ませた後に伺うのではなく、病室で患者さんご本人とごご家族にも参加していただき、病状について話し合っている点が明らかに異なりました。患者さんは説明を受けて、疑問点があれば逐次質問していました。疾患や診察について学ばせていただいただけでなく、日本と米国の医療の類似点・相違点についても考えさせられる有意義な病院見学でした。また、伊藤先生を含む現地の先生方に、アメリカで働くまでの研修先や現地での働き方、USMLE の取得時期等についてお伺いすることができました。

今回のワシントン D.C.派遣研修では最先端の医療を学ぶことができただけでなく、日本と米国の医療の違いを肌で感じることができました。海外で様々な体験をさせていただくことは、今まで医学部で漠然と触れてきた日本の医療の長所・短所について考える良いきっかけとなりました。また、現地の先生方にお話を伺い、海外で医師として活動することの具体的なビジョンが得られたので、今後のキャリアについて見つめ直すことができました。普段とは異なる場所・環境で活動することで得られたものは非常に大きかったです。

す。現状に甘んじることなく、成長の機会があればどんどん挑戦していきたいです。海外での研修という貴重な機会を与えてくださった檜垣先生、現地での病院見学を設けてくださった伊藤先生をはじめ、ご尽力いただいた全ての方々に心より感謝申し上げます。